

Yokohama Arts Foundation

記者発表資料

令和2年2月5日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリー

横浜を再発見！横浜市民ギャラリーコレクション展 2020

うつし、描かれた港と水辺



林敬二《横浜港》1988年 油彩、キャンバス 91.0×116.0cm

横浜市民ギャラリーには、約1,300点の所蔵作品があります。今回はその中でも、港や海、水辺を描いた作品を特集します。横浜港をはじめ、外部との玄関口、物流の拠点である港、古くから絵画や文学で題材となってきた水辺は、人びとの生活に密着する存在、郷愁の対象の両方になり得ます。本展では横浜を中心に港や水辺をうつし描いた油彩、日本画、写真、版画など約50点を紹介します。展示はテーマを設け4セクションで構成します。また特別展示として、横浜出身の日本画家・牛田雞村の作品全3点を久しぶりに展示します。

【展覧会概要】

展覧会名：「横浜市民ギャラリーコレクション展 2020 うつし、描かれた港と水辺」

会 期：2020年2月28日（金）～3月15日（日）10:00～18:00（入場は17:30まで）

会期中無休、入場無料

会 場：横浜市民ギャラリー（横浜市西区宮崎町26-1）展示室1、B1

出品作家：相笠昌義、天笠義一、今関一馬、岩田栄之助、奥村泰宏、國領経郎、柴田昌一、園山晴巳、田中 岑、ちばてつや、土井俊泰、常盤とよ子、西村建子、馬場禱男、浜口タカシ、林 忠彦、三橋兄弟治、森 兵五、柳原良平、由木 礼 他

主 催：横浜市民ギャラリー

（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社 共同事業体）

【本展の見どころ】

◆懐かしい横浜、多彩な表現

出品作品が描かれた（うつされた）時期は、1920年代から1990年代までです。制作当時の横浜の姿や、開港期の資料等に取材したもの、いずれも懐かしい風景が取り上げられています。今では変わってしまった場所、また変わらないものを探しながら鑑賞することができます。また、版画を中心に抽象的な表現もみられます。「港」「水辺」を切り口に、多彩な作品の数々をお楽しみください。

◆特別展示 牛田雞村

横浜出身の日本画家・牛田雞村の《藁街の夕》《蛮船の泊》（いずれも「蟹港二題」より）、《関内》を久しぶりに3点同時に展示します。日本画を発表した期間の短い作家の貴重な作品です。

◆鑑賞サポーター（ボランティア）が作品中のスポットを調査、マップで紹介

作品に見られる横浜市内のスポットを事前調査し、会場内に貼りだす大きなマップでご紹介します。サポーターそれぞれの視点が反映された楽しい内容です。親しみやすさで好評の「鑑賞サポーターによるトーク」も2回実施します。

【関連イベント】

①ワークショップ「木版画摺り体験 摺りであらわす水辺の情景」

2月29日（土）14:00～16:00 会場：4階アトリエ
講師：関 淳一（横浜美術館主席エデュケーター）
対象：小学生以上20名（小学生は保護者同伴、抽選）
参加費：500円 申込締切：2月14日（金）

②ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」

3月8日（日）10:30～11:30 対象：小学3～6年生10名（抽選）
参加費：無料 申込締切：2月18日（火）

③学芸員によるギャラリートーク

3月7日（土）14:00～14:30

④鑑賞サポーターによるトーク

3月8日（日）、14日（土） 14:00～14:30

※①、②は事前申込制。申込はホームページの申込フォーム
(<https://ycag.yaf.jp/exhibition-event/>) もしくは直接来館。
※③、④の会場は展示室1、B1。参加無料、申込不要。

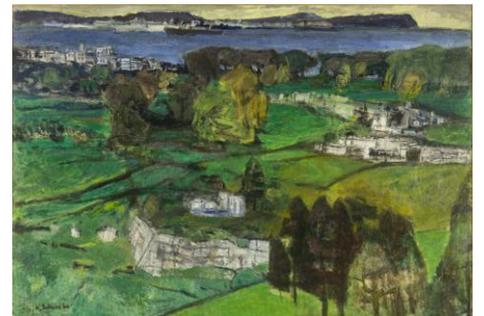
※ぜひ当事業の取材、情報掲載をお願い申し上げます。
取材の際は、事前にご一報ください。広報用画像の提供が可能です。



五十嵐英壽《ハマの三塔》1953年
ゼラチン・シルバー・プリント
47.6×31.9cm



牛田雞村《蛮船の泊（「蟹港二題」より）》1926年
絹本着彩 62.1×112.9cm



櫻庭彦治《横浜・山手（外人墓地と港）》1963年
油彩、キャンバス 111.8×161.3cm



萩原英雄《港風景》1988年 木版
60.9×46.4cm

お問い合わせ先 *本日は17:15まで在席しております。

横浜市民ギャラリー 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】

館長 松井美鈴

展覧会担当 齋藤里紗

TEL: 045-315-2828